

<p>【キャッチフレーズ】</p>  <p>笑顔・花・命</p>	<p>奄美市立大川小・中学校</p> <p>学校だより大川</p>	<p>【校訓】</p> <p>勉学・協力・根性</p>  <p>平成 30 年 11 月 21 日発行</p>
---	-----------------------------------	--

「^{にわとりたまご}鶏卵」シマ唄にある子育ての教訓

校長 前田浩之

奄美市の一集落 1 ブランドに、西田集落の八月踊り唄「鶏卵（にわとりたまご）」が認定されたとの新聞報道がありました。9月9日祭の「びっこさらっこ」に小学生が参加したお礼にと、西田の区長さんが学校を訪問された際に話題となり、歌詞を知りたいとお願いしたところ、土曜授業にいらっしやったシマグチの講師のお一人が新聞記事のコピーを持参され、歌詞を知ることとなりました。

にわたりの卵（ヨイソレ） 二十日夜に^{しれ}孵化る（ソннаソレ ソレソレ ヤイソレソレソレ）

二十日^お抱せ^も抜けば（ヨシソレ） 羽^も生て^も飛び^もゆる（ソннаソレ ソレソレ ヤイソレソレソレ）

男女の掛け合いの歌だそうですが、次のような意味があると「八・六会」の奥山恒満さんが新聞に語っています。「卵を孵化するまでに鶏は二十日間覆いかぶさって卵を抱いて育てる。二十日経つと羽が生えて巣から出て行く。これは人も同じ。つまり、二十歳までは親が面倒を見るが、二十歳過ぎると独り立ちするようにとの人生の厳しさを教えた唄であり、旅立ちの唄であり、愛の唄でもある。」

シマ唄やシマグチには多くの教訓（ユシグトリ）が含まれ、子育てや人の心の持ち方に学ぶことが多いと思います。奄美の先人たちは、こうやって心の温かい「結いのシマ」を引き継いできたのだなと再認識することでした。

子育ての目的は、「子どもを自立させること」にあります。愛情をたっぷり注ぐべき乳児期（0～2歳）、生活リズムが定着し友達との遊びで社会性や道徳性を身につける幼児期（2～6歳）、善悪の判断が教師や保護者の影響を受けやすい児童期前期（小学校低学年）、自分を客観的に見られるようになり優越感や劣等感を感じやすくなる児童期後期（小学校高学年）、そして自意識と現実のギャップに悩み親や教師よりも友人関係を重視する思春期。自立までに子どもたちは変化し、それに伴って親の子どもとの関わり方も相応に変化しなければなりません。大事なのは距離感だと思います。人間は生まれたときから自立に向け、準備を始めています。かわいがるのも愛情、厳しくするのも愛情です。子育ての目的は「自立させること」。目的さえ見失わなければ、子育ては成功するでしょう。

ちなみに私の好きなシマの教訓（ユシグトリ）は「心持ちなりや ^{ぼしや}芭蕉ぬ葉ぬ広さ 松ぬ葉ぬ狭さん心持つな（心は芭蕉の葉のように広く持ちなさい 松の葉のような狭い心じゃだめだ）」

自戒の念を込めて、時々思い出します。

10月後半～子どもたちの様子

小学部：びっこさらっこ



西田集落の歴史を体験しました。

中学部：生徒会役員選挙



新生徒会役員が決定しました。

会長	岸田結菜
副会長	持永彩星
書記・	持永愛輝
会計	泉沙葉羅

文化祭

今ここに シマの誇りを織りなす光となれ



中 ビブリオバトル



中1 野茶坊物語



小5・6 日々成長



中2 ストーンパワー



大川戦隊
イチネンジャー



小3・4 おおかわZERO



野球ボーイズ



SKY☆J



エピカニクス



中3 Finale ~Shining~



全校合唱 アイツムギ

11月後半～12月 主な行事予定

11/28(水)	奄美市中学校英語暗唱大会 (笠利中) 奄美市中学校弁論大会 (赤木名中)
12/ 1(土)	奄美市中体連ソフトテニス大会 (三儀山) ～2日(日)
12/ 4(火)	(小) 黒米収穫祭
12/ 5(水)	火災避難訓練
12/ 6(木)	授業参観 学校保健委員会 学級PTA
12/ 8(土)	土曜授業 (シマ唄・シマグチ学習)
12/11(火)	(小) 校内持久走大会 (中) 校区一周駅伝競走大会
12/13(木)	スクールカウンセラー来校
12/19(木)	愛護センター合同補導
12/21(金)	二学期終業式